

KIYOSEのひと

小料理 ひさご
荻野恵子さん

気取らないごはん、ふっと肩の力が抜けるひととき。まちの日常に寄り添いながら、食堂を続けてきた恵子さんの歩みを紹介します。



清瀬で長く親しまれてきた食堂「ひさご」。戦中に祖母が始めた店を継ぎ、現店主の恵子さんが厨房に立って54年。81歳の今も、ランチタイムには変わらぬ笑顔でお客さんを迎えています。

今年2月にオープンを迎える南部児童館等複合施設「まつぼっくり」にほど近く、病院や研究所で働く人たちが昼休みにふらりと立ち寄る拠りどころでもあります。

「長く続けられた秘訣？健康もあるけど、自分の気持ちに嘘をつかないことかな」。そう話す恵子さんは、自分のことを「のんびりした性格」と笑います。「お客さんが喜んで食べてくれるのを見て元気をもらってるのよ」。

金曜日は常連たちが名付けた“ママカレー”の日です。ご飯はセルフで、大盛りも自由。豚汁や茶碗蒸し、コロッケなど人気の献立も、店主



とお客さんのやりとりの中で、自然と形づくられてきました。この店を「コミュニティ食堂だね」と呼ぶ人がいるのもうなずけます。

差し入れがあると、自分が食べられる分だけいただいて、あとはお客さんに振る舞います。「父がね、『与えられたものはみんなで分けなさい』って教えてくれたの」。伊勢神宮の宮司だった父の言葉は、今も恵子さんの暮らしの根っこにあります。

若いころから何度か大きな病を乗り越えてきました。「守られてるのよね」と、出来事をさらりと受け止める語り口に、恵子さんらしさがにじみます。

「この先もずっとできたらいいね」。そう笑う恵子さんの周りには、今日も人が集い、あたたかな言葉を交わす穏やかな時間が流れています。

☎ 042-491-3863 🏠 清瀬市松山2-16-16
🕒 11:00~14:00、17:00~22:00 / 日曜定休

清瀬市観光協会の

お 推し!



きよせ箱
80サイズ 250円(税込)

※詰め合せ例。商品は価格に含まれません。

地域産品を選んで詰めて贈る、清瀬の恵みギフトボックス「きよせ箱」新登場!

清瀬市観光協会がプロデュースするギフトボックス「きよせ箱」が、12月5日に新登場。市内で親しまれている「きよせ棒」や「キヨセゴーカレー」などの地域産品を、自分好みに詰め合わせて贈ることができます。清瀬のまちをイメージしたオリジナルデザインの箱で、贈り物として、気軽に“清瀬の恵み”を届けてみてはいかがでしょうか。

【きよせ箱 販売箇所】

清瀬市役所本庁舎1階売店 A-STAND、JA東京みらい 清瀬新鮮館、いなげや秋津駅前店、セブンイレブン(清瀬中清戸5丁目店、清瀬松山1丁目店、清瀬野塩4丁目店、清瀬元町1丁目店、清瀬梅園2丁目店、清瀬下宿1丁目店、清瀬野塩1丁目店)



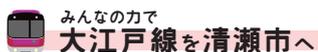
📄 詳しい情報は
こちら

more! KIYOSE vol.09

発行：清瀬市シティプロモーション課
発行月：2026年1月
問合せ：☎042-497-1808(直通)
制作：合同会社ハチコク社



清瀬市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



本誌記載内容の無断転載はご遠慮ください。
©2026 more! KIYOSE all rights reserved.

あなたの声をお聞かせください

本誌へのご意見やご感想、
気になる情報や見てみたい企
画も募集中です。これまでの
号も合わせてご覧ください。

ご回答は
LoGoフォームへ /
バックナンバーは
こちら

